

八色の森公園では、子供たちが落ち葉で遊ぶ微笑ましい姿が見られます。残り少ない穏やかな秋を楽しみたいと思います。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

◆山の秋、川の秋

稲の刈り取りが済んで広々とした田んぼを眺めていました。秋も半ばを迎え、やっと畑の草取りから解放されるし、裏山をぶらぶら歩いてみよう、木の枝をかき分け登っていきました。日の当たる斜面にたどり着くと、なにやらキノコのおいがします。ゆつくりと足下を見渡すと、何本も目に飛び込んできました。色は薄茶色で粘りはなし。中央部がへこみ、縁が波立っています。持ち帰って図鑑で調べると、アカモミタケに似ていましたが、本当はどうだったのかは藪の中です。

魚野川で鮭の川漁を見学しました。オスの鮭をオトリにして、仲間が近づいてきたところを投網で捕獲する漁法です。仲間といっても、オスは喧嘩相手、メスは恋愛対象です。漁師は川原に立って、川の流れをじっと見つめながら、投網の瞬間がやって来るのを、ひたすら待ち続けるのです。(館長 高橋良一)

◆選択肢

しまった！ 読んではいけない本を読んできました。と後悔したが、すでに遅し。スーパーやコンビニで買い物をするたびに、商品の裏に記載されている表示を見ても、食品添加物の本は今まで知らなかったことが書いてあり面白かったが、お店の人からは商品

の裏ばかり覗いている変な人と思われるに違いない。現代の食品加工は添加物なしでは成り立たないのか、とにかくありとあらゆるものに使用されている。中には、発癌性が疑われるものもあるという。もちろん、天然由来で無害なものもある。知ってしまった以上は少しでも避けながら選択するしかない。ソースでも無添加のものもある。飴でもパンでもしかり。そう言えば、長年愛飲してきたワインにもしつかり入っていた。たまたま事情により禁酒中のため、安堵したが、別の本を読むと、現代人の体には、大昔の人間に比べると、すでに大量の添加物が蓄積しているという。上手に付き合っていくしかない。(岡西英孝)

◆齋藤真一——越後警女日記の世界——

齋藤真一は、岡山県生まれの洋画家です。37歳でフランスに留学。帰国後、パリで知り合った藤田嗣治の勧めで、青森県津軽を旅し、盲目の女旅芸人・警女を知ります。その後、1964年に高田の警女・杉本キ



齋藤真一「佐久の且那」1969年 (上越市立総合博物館所蔵)

クイに出会い、各地の警女を訪ね、彼女たちの喜怒哀楽、生き様を絵画で表現しました。その結晶が『越後警女日記』や『お春警女物語』です。

今回の展覧会では、齋藤真一の『越後警女日記』油彩画を中心に約50点を展示します。上越市立総合博物館が所蔵する油彩画のほか、絵巻やペン画も展示します。展覧会の実現にあたっては、博物館をはじめ、齋藤真一のご子息である齋藤裕重氏や、コレクターの池田敏章氏、また「高田警女の文化を保存・発信する会」など、多くの方々からのご協力がありました。心よりお礼申し上げます。(広田かおり)

◆リフレッシュ

美容室で「髪を短く切ってください」と伝えると、「ひよつとして四十肩ですか」と言われてしまいました。肩が痛くてドライヤーが持てず、髪を短くカットする人が多いそうです。そうじゃないと否定はしましたが、改めてそういう年代になったと実感しました。

美術館では、お客様から「どうしたの」とか「何かあったんですか」と声をかけられ、親戚にまで言われてしまいました。女性からは見た目の感想だけを言われますが、どうも男性は違った意味で心配されるようです。女性には繊細な感情を持って髪を切ると思われる方が多いのでしょうか？ 同時期に髪を切った学芸員も同様に、失恋や病気をした訳でもなく、ただただ、夏の猛暑に耐えきれず、少しでもサッパリとリフレッシュしたいと思っただけです。ご心配をいただいた皆様、ありがとうございました。二人とも心身ともに元気に毎日を過ごしています。(佐藤良子)

◆大切なふれあい

10月の連休に六日町地区青少年育成会の親子ふれあい事業がありました。毎年、この日

は秋晴れの気持ちの良いお天気なのですが、今年に残念ながら朝から雨模様。屋外での事業を計画していたため、不安なスタートとなりました。が、そんな不安を吹き飛ばしてくるほどの参加人数！ 雨にもかかわらず、ほぼ予定通りの参加者となり、沢山のご家族にお集まりいただきました。

今回は少しくアクティブな感じで、もしかすると大人が楽しいかも(?)という内容で、少し涙を流してしまっただけのお子さんもいたようでした。不安だったお天気もお昼頃には回復し、昼食の時間には外で食べることができくらいいなり、涙だったお子さんも元気にカレーを食べてくれました。

森の中を親子で駆け抜けたり、学校・学年を越え、大自然で遊んだり、のんびりしたりと、たまにはゆっくり親子のふれあう時間も大切だなあと思う事業となりました。(山口加奈子)

◆熱き心

イングランドで開催されたラグビーのワールド・カップ。日本代表が南アフリカを破るのを見たのは、検査入院中の病院でした。歴史的瞬間を共有できたゾクゾク感は、生涯忘れえせん。世界との差が大きいスポーツ種目で、互角に戦うなんて無理と相手にされませんでした。95年のワールド・カップではニュージーランドに145失点しています。「歴史を作ろう」と就任したエディー・ジョーンズヘッドコーチは熱き心の持ち主でした。構築したジャパンウェイは、弱者がどう強者を乗り越えていくかを示した最高の戦略です。「史上最高の番狂わせ」と世界のマスコミを唖然とさせ、一瞬にしてオールジャパンの存在を世界に知らしめ、応援する日本人に誇りを与えました。この10月、南魚沼市もスポーツ健康都市宣言を採択しました。熱き心を共有したいものです。(顧問 佐藤吉昭)

斎藤真一が描いた《瞽女》絵

池田敏章

斎藤真一「三人瞽女」1972年
(上越市立総合博物館所蔵)

(高田瞽女の文化
を保存・発信する
会 顧問)

昭和45年、東京のど真ん中、銀座の画廊で田舎の高校美術教師が個展を開催しました。並木通りには聞きなれない唄が流れていました。それは瞽女唄でした。その展覧会は、ミニスカートの娘さんから老人まで、多くの人の心を捉えていました。涙する人さえいたのです。その情景を朝日新聞が夕刊の社会面一面を使って報道しました。都会の人々が求めている心が描かれていると。著名な洋画家や日本画家にも影響を与えました。それが斎藤真一の「越後瞽女日記」展なのです。

その後、ディスカバージャパンブームなども手伝って、瞽女の世界は多くの場面で取り上げられました。映画、テレビ、ラジオ、演劇、文楽、日舞など……。

斎藤真一は瞽女絵について「瞽女の世界の深遠さに驚きおののき、一生をかけるべき仕事だと、後世に残すのだ」と記しています。文明が発達すればするほどに人間味を失っていく昨今ですが、繊細で心優しき画家斎藤真一が描いた瞽女の世界に魅入ってください。

池田記念美術館 展覧会&イベント情報

■ 斎藤真一——越後瞽女日記の世界——

◎1階企画展示室・多目的ホールほか ◎期間：11月14日(土)～12月14日(月)

三味線を手に、唄をうたい、一年の大半を旅に暮らした目の不自由な瞽女たちの喜びや悲しみを描いた画家、斎藤真一は、頸城の山里や信州の瞽女宿を訪ね歩き、カンバスの上に、瞽女の間人絵図を10年以上にわたって記録しました。今回の展覧会は、上越市立総合博物館所蔵の油彩画を中心に、ペン・水彩彩色画、絵巻など約50点を展示します。併せて、斎藤真一の原画を使用した書籍やレコードジャケット、高田瞽女の写真、三味線などの関連資料も紹介。また、女優の金澤碧さんによる朗読会「ひとり、かたり」の上演、池田敏章氏の作品解説会、月岡祐紀子さんの瞽女唄公演会なども開催します。

■ 金澤碧さん朗読会「ひとり、かたり」 11月14日(土) 15:00～ ※入館料が必要です。

■ 池田敏章氏「作品解説会」& 月岡祐紀子さん「瞽女唄」 11月22日(日) 15:00～ ※入館料が必要です。

■ 日本水墨院 新潟県支部水墨画展

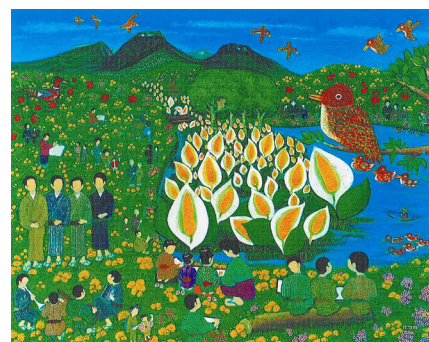
◎1階企画展示室・多目的ホール ◎期間：12月18日(金)～12月23日(水・祝)

墨の線と濃淡を使って描かれた水墨画の静謐な世界を堪能してください。

■ 冬季特別展示——後藤はつの 112歳の絵画展——

◎2階特別展示室 ◎期間：12月18日(金)～2016年3月21日(月・振休)

73歳でデビュー。妙高・赤倉出身で今年112歳を迎えたスーパーレディが99歳まで描き続けた100号の油彩画を中心に多数展示します。



後藤はつの「野外教室」2000年

■ 常設展

「日本美術展示室」日本最初の女性洋画家であるラゲザ・玉の油彩画、會津八一の書、星襄一の版画、良寛の書、北越雪譜の初版本などを展示しています。「小泉八雲展示室」小泉家秘蔵の資料約1500点の中から、直筆原稿や公文書、家族との書簡などを展示しています。検索コーナーもあります。「スポーツ文化展示室」野球、相撲、オリンピックを中心としたスポーツコレクションです。草創期の野球文化を知るユニフォームなど歴史的な展示品を見ることができます。

◎他の展示・イベント

■ BBM スポーツカードショー 2015 秋の陣 11月21日(土) 10時～16時

◎1階エントランスホール

スポーツカードファンが美術館に大集合。カード交換会、福袋販売、大抽選会、意見交換などで賑わう恒例のイベントです。

■ 池田音楽クラブ「音を楽しむ集い」

11月1日(日) 14:00～ フォークソングの日

11月29日(日) 11:30～ 月例音楽会・フルートとピアノ 13:00～ エクセルランド(男性ヴォーカルグループ)

池田記念美術館 南魚沼市浦佐5493-3 (八色の森公園内)

TEL 025-780-4080 / FAX 025-777-3815

【開館時間】9:00～17:00 (入館受付は16:30まで)

【入館料】一般 500円 高校生以下無料

【ホームページ】http://www.ikedart.jp

【11月の休館日】

※水曜日(4日、11日、18日、25日)

※10日(火)、12日(木)、13日(金)は展示替えのため臨時休館となります